

# 時間銀行「おあいこバンク」導入案

—新たな助け合いの形による地域の繋がり強化—

同志社大学政策学部風間ゼミナール時間銀行班

○左近 琴音 (Kotone Sakon)・鈴木 仁美 (Hitomi Suzuki)・磨田 和憲 (Kazunori Togita)・林 葵 (Aoi Hayashi)・松本 亜季 (Aki Matsumoto)・森島 一帆 (Ichiho Morishima)

(同志社大学政策学部政策学科)

キーワード：時間銀行、相互扶助、地域の繋がり

## 1. 問題意識

子どもが熱を出したときのお迎えや高い場所の電球の交換、長期不在中の植物への水やりなど専門職でなくても対応が可能な日常的な支援を必要としている人は多い。本来こうした支援は行政が行うものではなく、住民同士で補い合うものである。しかし、2019年に京都府が府民4900人を対象に実施した「京都府民の意識調査」によると、困ったときに気軽に頼れるご近所がない割合は、42.6%であった。この回答結果から、住民同士で助け合って解決できる問題が無数に存在しているにもかかわらず、頼れる住民がないことに問題意識を置いた。この問題は地域の結びつきを強めることで解消できるのではないかと仮定する。

## 2. 現状分析

2017年の京都市民4000人を対象にした「市政総合アンケート」によると、「住民同士のつながり」があまり強くない」と答えた人は54.1%と半数を超えており、地域のつながりが希薄化していることが読み取れる。そこで私たちは「時間銀行」という制度に着目した。これは、誰もが持っている「時間」を単位とし、サービスを提供し合う相互扶助の仕組みである。活動内容は、簡単な家事や趣味の同行など些細なことで構わない。行なった活動に対する時間分のクレジットが付与され、獲得したクレジットで他のサービスを受けることができる。支援する、されるといった区別がなく、誰もが時間銀行のコミュニティへ参加することができる。この仕組みを世界で初めて導入したのが大阪市中央区にある特定非営利活動法人ボランティア労力ネットワークである。私たちは10月23日に同法人の理事長清水氏と会員である水島氏、佐々木氏、永井氏にヒアリング調査を行った。清水氏は、「対価を払うことで、無償だと気が引ける小さな困り事も気軽に頼むことができる。」と述べた。時間銀行はスペイン、アメリカ、カナダ、イギリスなど様々な国で導入されている。イギリスでは、現在までに合計660万時間分取引されていることが判明した。また、アクティブユーザーは

24000人、関係団体数は2662団体と活動が活発であるということが読み取れる。また、スペインでは約300個の時間銀行が存在している。コロナ禍では、時間銀行が生活支援のツールとして中心的な役割を果たした。政府や自治体が住民の困り事に対応しきれない中、時間銀行によって構築された人々のつながりを利用し、住民同士は自発的に助け合い、様々な困難を乗り越えた。つまり時間銀行は、普段関わりのない人とつながりを持つきっかけとなり、非常時に助け合える社会ネットワークを構築する。そこで私たちは、時間銀行「おあいこバンク」を提案する。

## 3. 政策提言

おあいこバンクは、サービスの報酬がお金ではなく、自分たちの思いやり、つまり「愛」の活動であるという意味と、時間銀行の特徴である相互扶助の側面を「おあいこ」という言葉で表し、その2つを掛け合わせた。

### 3-1. 制度の概要

さしあたりおあいこバンクは、上京区に実証実験的に導入する。時間銀行は多数の先行事例より、小さくありながらも多様なサービスが行える程度の範囲で行うことが好ましいと判明した。よって京都市の場合、区ごとの設置が適切であると考えられる。また、同区は同志社大学などの教育機関が多数存在するため、本制度において提供者として重要な存在である若者の参入が見込める。

ある人が他人に対してサービスを提供した際、その時間に応じたクレジットを獲得する。本制度では15分で1クレジットと設定し、1時間のサービスでは4クレジットが付与される。付与されたクレジットは将来のために貯蓄し、必要なときに引き出すことも、サービスを受けたいと思ったときに使うこともできる。具体的なサービス内容は、植物の水やり、買い物の付き添いといった個人間で行われるものもあれば、高齢者宅を訪れる見守り隊や公共施設の掃除などの個人間以外で行われ

るサービスも想定している。これらの交換が活発に行われるよう支援する存在として、時間エージェントという役職を区役所に設置する。時間エージェントは、時間銀行の円滑な運営や、誰でも提供できそうなサービスをリストアップし、支援される機会が多い人に提案するという役割を果たす。本制度は誰でも利用し、提供することができるという、間口の広い制度であるということを強調する。

### 3-2. 利用の流れ

おあいこバンクのサービスはログイン機能のあるWebを通して行われる。会員登録と実際の利用の流れは以下の図1の通りである。また、行政が個人情報を管理することで、個人情報漏洩の不安感を拭うことができる。

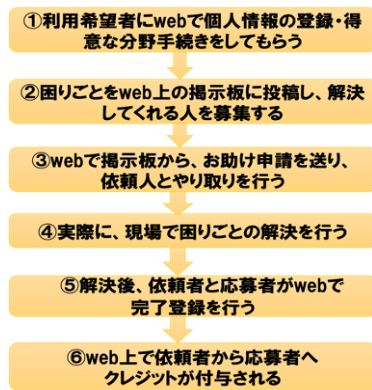


図1. 利用手順の流れ

### 3-3. おあいこバンクの課題と解決策

時間銀行制度には2つの課題がある。

1つ目は困りごとが少なく、他人の助けを必要としない若者へのインセンティブが低いことである。これに対して、本来の時間銀行は長期貯蓄により老後の不安が解消されるという利点があるが、大半の学生は京都を離れるため、このメリットは有効ではない。しかし、おあいこバンクではこの課題の解決策として、証明書制度を導入する。これは希望する者には証明書を発行し、従来のボランティアではできなかった奉仕活動の成果を可視化する。

2つ目はクレジットを稼ぐことが困難な人々がどのようにクレジットを獲得するかという問題である。先述のように、本制度の時間エージェントが彼らに対して提供することができるサービスをリスト化し、提案することで解消する。

加えて、2つの課題を同時に解決する仕組みである譲渡制度を導入する。この制度は、京都を去る学生が稼いだクレジットを、獲得することが困難な人へ譲与するものである。その際、希望者は双方の名前や顔が認識でき、人と人とのつながり

を実感できる。

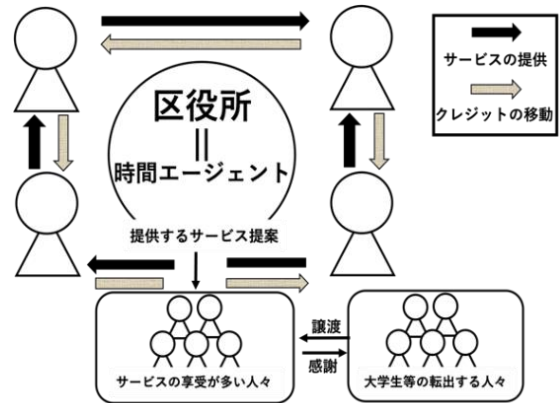


図2. おあいこバンクの仕組み

### 4. 期待される効果と展望

私たちの提案するおあいこバンクでは、地域のつながりを持つきっかけをつくり、住民間での自発的な助け合いを可能にする。また、本制度は時間エージェントの支援を受け、サービスを楽しむのみで社会的弱者となりがちな人も提供できるスキルがあるということを知り、存在意義を実感することができる。

また、上京区を先行事例として全区役所に時間銀行を導入し、区を超えたやり取りを可能にすることで、転居したとしてもクレジットを継続して貯めることができる。

#### <参考文献>

- (1) 京都府(2019)「令和元年度京都府民の意識調査の結果について」  
<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/tokeikyoto/tk2019/tktokushu201911b.pdf>
  - (2) 京都市(2017)「市政総合アンケート調査結果『地域における生活活動や支え合い活動に関する意識調査について』」  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/page/000000282.html>
  - (3) Timebanking UK(2023)「Timebanking in numbers」  
<https://timebanking.org/>
  - (4) 工藤律子(2021)『『社会的連帯経済』への誘い 5 番外編 パンデミック下のスペインで見た『社会的連帯経済』のしなやかさ』, 情報・知識&オピニオン imidas  
[https://imidas.jp/latingang/?article\\_id=1-70-036-21-10-g471](https://imidas.jp/latingang/?article_id=1-70-036-21-10-g471)
  - (5) 工藤律子(2016)「ルポ 雇用なしで生きるスペイン発『もうひとつの生き方』への挑戦」, p34-53, 岩波書店
  - (6) 田中直紀(1996)「市民社会のボランティア『ふれあい切符』の未来」, p51-127, 丸善ライブラリー
- (最終アクセス: 全て 2023/10/24)